

contents

愛のヴィクトリアン・ジュエリー展 ～華麗なる英国のライフスタイル～	[2～3]
福井県立美術館ボランティアの会 15周年記念事業	[4]
所蔵品によるテーマ展	[5]
移動美術館 小浜展1・敦賀展	[5]
イベント報告	[5]
福井県立美術館友の会	[6]
福井県立美術館館蔵品紹介	[6]
島田墨仙 橋本左内肖像画誕生秘話の巻	[7]
〔福井県立美術館もの知り事典④〕北荘・北美	[8]
NHK大河ドラマ特別展「江」福井展	[8]
福井県立美術館 秋の企画展案内	[8]



ピンクパール&カラーゴールドスイート(部分)
『愛のヴィクトリアン・ジュエリー展』より

愛の ヴィクトリアン ジュエリー 展

A CELEBRATION OF VICTORIAN JEWELLERY LOVE

～華麗なる英国のライフスタイル～

A Celebration of
Victorian Jewellery,
Love, Leisure and Ceremony



《若き日のヴィクトリア女王》 油彩・カンヴァス 1842年頃
イギリス F.X.ウィンターハルター工房

18歳で即位した
英国の若き女王は、
憧れのファッション・リーダー
でもありました。

1837年、18歳の女性が大英帝国の頂点に立ちます。それは英国が過去にない繁栄を享受したヴィクトリア女王時代の始まりでした。女王は女性のライフスタイルに関わる多くの分野に圧倒的な存在感を見せ、とりわけジュエリーの世界では注目すべき展開をもたらしました。それは帝国に流れこみ蓄積された豊かな富によってのみ形作られたのではなく、ヴィクトリア女王という一人の女性の生き方と彼女の愛が、当時の英国文化にさらなる輝きを加えた結果であるといえるでしょう。

女性を美しくみせる自己表現としての装身具の世界が一気に花開いたこの時代、愛する夫との間に9人の子供に恵まれた女王は、平和な家庭の象徴であっただけでなく、ヨーロッパ中が注目するファッション・リーダーでもあったのです。

英国のライフスタイルは、今日の日本人が憧れ共有する文化です。この展覧会はその原点を探るとともに、ヴィクトリア女王という一人の女性の人生を振り返ることが出来る、またとない機会となるでしょう。



1. アンティーク・ ジュエリー

産業革命の成果と世界に広がる植民地は、ジュエリーやファッションの世界に、質と量の飛躍的な発展をもたらしました。植民地での新たな金鉱の発見がゴールド・ジュエリーを発展させたのはその典型であり、さらに古代遺跡の発見や旅行ブームによって多彩な素材やモチーフが提供されるようになりました。人々の個人的な愛情や思い出を表現したセンチメンタル・ジュエリーもこの時代に流行し、金銭的な価値を超えて愛好されました。

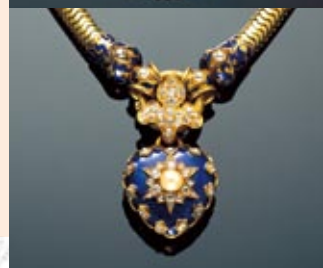
《ターコイズ&ゴールドブローチ》
ゴールド、ターコイズ 1830年頃
イギリス



《ピンクパール&
カラーゴールドスウィート》
ゴールド、ピンクパール
1830年頃 イギリス



上:《シードパールティアラ》
ゴールド、シードパール
19世紀初期 イギリス
中:《リガードパドロックペンダント》
ゴールド、ルビー、エメラルド、
ガーネット、アメジスト、ダイヤ
モンド、パール、ターコイズ
1820～30年頃 イギリス
下:《ブルーエナメル&ゴールドネ
ックレス》
ゴールド、ダイヤモンド、パール、
ブルーエナメル
1865～70年頃 イギリス
旧ジョン・シェルダンコレクション



2010年7月24日(土)～8月22日(日) 会期中無休

【開館時間】 9:00～17:00 (入館は16:30まで) 毎週金曜日は20:00まで (入館は19:30まで)

【会場】 福井県立美術館 〒910-0017 福井市文京3丁目16-1 TEL.0776-25-0452

【観覧料】 一般800円/大高生500円/中小生300円/30名以上の団体は2割引

身体障害者手帳等所持者およびその介護者1名は半額(ただし手帳に介護印のある方)

主催:福井県立美術館/共催:福井テレビ/特別協力:穂葉アンティークジュウリー美術館/後援:ブリテッシュ・カウンシル、(社)日本ジュエリー協会、(社)日本ジュウリーデザイナー協会、日本紅茶協会/協力:福井県立美術館ボランティアの会/企画協力:アートプランニングレイ

【関連イベント】 ◎講演会「アンティークジュエリーにこめられたメッセージ」 講師/穂葉昭江(穂葉アンティークジュウリー美術館長)
8月8日(日) 14:00～ 於講堂 ※参加無料

【学芸員によるギャラリートーク】 8月1日(日)、17日(火) 14:00～ ※本展チケットが必要

【同時開催】 所蔵品によるテーマ展「新収蔵品展② 子どもたちの情景 ～絵本原画の世界～」 ※本展チケットにて鑑賞可

●希望者に夏休み学習シートを配布/クイズに挑戦しながら展覧会を探検しよう! 対象:小中学生・親子



《ウェディングドレス》
シルクサテン 1840年頃 イギリス (東京 Bunkamura 会場写真)

2. 喜びのウェディングから 哀しみのモーニング

女王はウェディングにおいても時代をリードしていました。豪華な金糸使いのドレスではなく、白を基調とし、レースをあしらう今日のスタイルは、英国における結婚指輪の交換と共にアルバート王子との挙式から始まったものです。またヴィクトリア女王は、25年の長きにわたり夫の喪に服したことで知られていますが、夫の肖像を描いたミニアチュールと髪の毛を入れた小さなロケットを生涯身につけていたといわれています。



《ウェディングドレス》
シルクサテン 1840年頃 イギリス

会場には
テーブル
セッティング
を再現!



《ティーセット(トレイ、ティーポット、コーヒーポット、クリーマー、シュガーポット)》
シルバー 1860～61年 イギリス

3. 優雅なひととき ～アフタヌーンティー～

17世紀に始まった喫茶の習慣は貴族社会のステータス・シンボルとなってきました。ヴィクトリア女王の時代には紅茶文化がさらなる発展を遂げ、今日のアフタヌーンティーの様式が確立されました。美しい調度品に囲まれた空間、素晴らしいテーブルセッティングと繊細な銀器で当時の優雅な雰囲気を是非味わってください。

特別出品

ダイアナ元妃 ゆかりのリング

24歳の誕生日を記念してフランスの宝石商から贈られた愛らしいリング。



《ダイアナ元妃のダイヤモンドリング》
ゴールド、ダイヤモンド
1985年頃 フランス



チャールズ皇太子と左手薬指にリングをつけるダイアナ元妃

福井県立美術館 ボランティアの会 15周年記念事業

福井県立美術館ボランティアの会は、平成8年の設立以来、県立美術館の来館者へのサービスを行っている会員数約80名の団体です。今年に会設立15周年に当たるため、記念事業として「愛のヴィクトリアン・ジュエリー展」に合わせ、子どもや親子連れにも親しみやすい関連イベントを開催することにしました。

メッセージ

県立美術館が夏休み期間中に開催する「愛のヴィクトリアン・ジュエリー展」に合わせて何か子どもさんたちが楽しめるものということで、まず材料探しから始めました。紆余曲折を経ましたが、ボランティアの会全員がお手伝い出来る「ミニ三輪車」に決め、4月頃から徐々に準備を進めてきました。

来館者の方々をお迎えする「ウエルカムボード」や子どもさんのための「不思議の国のアリス」の一場面も、おもちゃのピースを使って、みんなで楽しく根気よく作りました。

ヴィクトリア女王が、当時生産された三輪車を購入したということや「不思議の国のアリス」の物語を愛読したということなどを知って、女王との不思議な縁に驚いています。

ささやかなコーナーではありますが、ヴィクトリア女王に背中を押されているような気がして、きっと来館者の方々にも楽しんでいただける企画になるのではないかと思います。

また、講師をお迎えしての「シルバーアクセサリー作り」は大人向けにも行います。ボランティアのほうでも一度作って見ましたが、みんな初体験なのにとっても素敵なオリジナルアクセサリーが出来上がって全員大感激でした。

(ボランティアの会 松田・小泉)

常時
開催

つくれるよ！ミニ三輪車



参加
無料

太さ約1ミリのワイヤーがアクセサリーに変身。
ボランティアが制作のお手伝いをします。

【時 間】 午前9:30～午後4:00

【対 象】 5才以上

【協 力】 中島郁子(ワイヤーワークデザイナー)

ワイヤーアート作品コンテスト

参加作品の優秀作品には賞品をプレゼント。
参加書類は会場配布。

【募 集】 7月24日(土)～8月8日(日)

【表彰式】 8月15日(日) 午前10:00～

常時
開催

ティアラと王朝風ドレスで 女王様に変身！

人数制限あり
要観覧券チケット



英国王室のティアラ(精密複製)と
王朝風ドレスを着て、
記念撮影はいかがですか？

※ティアラは2種類、
ドレスは大人・子ども用があります。

【人 数】

午前、午後ともに先着5名様
(当日会場にて受付)

【時 間】 午前10:00～
午後 1:00～

【協 力】

鶴葉アンティークジュエリー美術館
岩本ブライダルハウス(福井市)

ミニコンサート

参加
無料

■7月25日(日)
エントランスロビーにて

～古き良き英国の風～

〈1部〉午前11:00～ ハープと歌
〈2部〉午後 1:00～ フルート二重奏
〈3部〉午後 2:00～ 四重奏

■8月8日(日)
エントランスロビーにて

～ハンドベル演奏会～

午後1:00～



ほかにも、齋藤好子作品展(常時開催、参加無料)、福井市立図書館特設コーナー、田原町商店街ジョイント企画、アリスの部屋、午後の紅茶教室など盛りだくさんな企画を用意しています。

詳しくは、福井県立美術館 ボランティアの会 TEL.0776(25)0452 までお問い合わせください。

テーマ展

「新収蔵品展② 子どもたちの情景
～絵本原画の世界～」

7/24(土)～8/22(日)

※期間中無休

昨年度、嶺南の企業から県立美術館へ寄贈された児童用絵本やかるたなどの原画を展示します。これらの原画はすべて、いわさきちひろなど著名な作家によって描かれており大変貴重なコレクションといえます。夏休みの一日を「愛のヴィクトリアン・ジュエリー展」とともに、是非親子でご鑑賞ください。



遠藤てるよ「かるた」原画

テーマ展

「日本画革新の時代
～狩野芳崖から横山操まで～」

9/3(金)～9/29(水)

※休館日は9/13(月)

岡倉天心ゆかりの狩野芳崖や封建的な画壇にあって革新的な日本画表現を確立した横山操、パンリアル美術協会を舞台に既成の表現を打破する作品を次々と発表した福井出身の作家三上誠の作品等多数紹介します。



狩野芳崖「柳下放牛図」

小浜展 1 8/7(土)～8/18(水)／若狭歴史民俗資料館 ※期間中無休
敦賀展 9/5(日)～9/18(土)／プラザ萬象 ※9月6日(月)・13日(月)は休館

県立美術館が昨年度収集した土田ヒロミや松崎真一などの新収蔵品を中心に展示紹介します。土田ヒロミは南越前町出身の日本を代表する写真家で、日本の土俗的な文化やヒロシマ(原爆)、高度経済成長、バブル経済等をテーマにした写真を撮り続けてきました。今回は、来春の県立美術館での展示に先立ち「新・砂を数える」シリーズがご覧いただけます。また、敦賀展では、美術全般について学んでいただけるよう図書コーナー等も用意しております。



土田ヒロミ「新・砂を数える」横浜



松崎真一「蝗A」

《イベント報告》
市民の愛した
もうひとつの
ヨーロッパ絵画展



講演中の千足伸行氏



ギャラリートーク風景

4月29日～5月23日開催の「市民の愛したもうひとつのヨーロッパ絵画」展は、当館では久しぶりとなる本格的なヨーロッパ絵画展であったため、開催期間が3週間余と短かったにもかかわらず、約3,300人のファンが来館しました。

* * * *

5月9日(日)には、成城大学教授で本展覧会の監修者でもある千足伸行氏を招き、「ヨーロッパ絵画の楽しみーバロックから近代へ」という演題で講演会を開催しました。

千足氏は本展の特徴や展示作品の内容、またバロック美術の特徴などについて、スライドを使ってわかりやすく説明され、約70人の参加者は終始静かに聞き入っていました。

また、5月5日(祝)、16日(日)、22日(土)に、ギャラリートークを行ったところ、延べ100人(3日間合計)の参加者は、担当学芸員の説明に耳を傾けながら、熱心に絵画を鑑賞していました。

春の見学会 (6月15日～16日)

《参加者の声》

『今回の東京一泊見学会は、好シュートナイスゴールでした。特に森アートセンターギャラリーの「ポストン美術館展」は、感動に浸ることができました。私の大好きなモネの11点をはじめ、ミレー、ルノワール、エル・グレコ、セザンヌ…ヨーロッパの巨匠の名画80点を一挙競演、美の殿堂のポストン美術館コレクションの本物に触れた感が強く、感動の充実した時を過ごすことができました。今回の見学会に参加して本当によかったと思いました。(田嶋丈治さん)』



国立新美術館前にて

『今回初めて見学会に参加させて頂き、2日間で4つの美術館を回るという盛りだくさんな内容にとっても満足しています。移動時間中に学芸員の方からミニ美術の講義を聞いたり、他の参加者の方と展覧会についての感想や意見を交換していると、自分とは違った視点や見方に気づいて、一人で訪れる時とはまた別の味があるものです。「オルセー美術館展」では、10年以上前にパリの同美術館を訪れた時の思い出が蘇って、懐かしさと作品の迫力にくっとくる想いを抱きました。三菱一号館美術館など今話題の美術館にも足を運ぶことができ、充実した見学会であったと感じています。(水島真樹子さん)』

(◆訪れた美術館…三井記念美術館、三菱一号館美術館、国立新美術館、森アートセンターギャラリー)

友の会への入会については、下記までお問い合わせください。

福井県立美術館 友の会事務局 TEL.0776(25)0452

福井県立美術館館蔵品紹介

本作品は、福井出身の画家三上誠（1919～1972）の前半期の代表作です。三上は、革新的美術グループ「パンリアル協会」を結成し、現代美術としての日本画のあり方を模索しました。本作品も戦災で廃墟となった街の様子を、それまでの花鳥風月的な日本画とは一線を画した抽象形態で描いています。F市というのは福井市のことでしょうか。暗雲たちこめる地上には焦土と化した街が広がっていますが、瑞雲がたなびく上空は再生と復興の希望に満ち溢れています。天空には復興を遂げた街並のようなものが見えています。天女にも似た若い女性は妹を、右の二人は父母を思い浮かべながら描いたといわれ、そこには故郷と家族に対する三上の愛着が垣間見えます。パンリアル宣言で唱っている「自由な芸術の芽生えを育てる」という精神が息づいている作品と言えるでしょう。



三上誠「F市曼荼羅」

1950(昭和25)年／紙本着色 額装／181.7×182.0cm

本作品は、
9月3日～29日開催のテーマ展「日本画革新の時代」で展示予定

島田墨仙

橋本左内肖像画
誕生秘話の巻

現在最も知られている
橋本左内の肖像画は
福井出身の画家
島田墨仙作（1867-1943）の
ものである。



「橋本左内肖像画」（複製）
福井市立郷土歴史博物館蔵 ※原本は戦火で消失

それは明治末のこと、
東京在住の墨仙のもとに
福井市からの肖像画依頼が
やってきたことから
はじまった。

絵・文 / 学芸員 佐々木 美帆

しかし描きはじめると
外野がうるさく描きづらいく
この上ない。

先生はこう…
ゲタのような
顔で…

鼻がちがう
それじゃ
肥りすぎだ

眼が
いけません

うーん

美兄さんの
理想通り
いいから
理想で
まきに
理想で
いいのな？

福井市の方からしきりに
頼まれ、最後には助役で
妹婿でもある三澤敬太の
押しの手でしぶしぶ了承

地元で神の如く
崇拜されている
左内さんを描けとは
やっかいな話だなあ

理想化して
描けないのが

乗り気薄な墨仙だったが…

しかしまたたつての頼みにより
墨仙はしぶしぶ引き受ける。
依頼人の一人である左内の弟子
堤正誼男爵は手拭いで
髪型指導をする
熱の入れようであった。

あいにくと先方は
気に入らなかつたようである。

フン 煙たしはえ

2、3年がかかりでやっと
下絵を仕上げた末
福井に送ったが…

また下絵を
焼かすまては
かなめはい
左内さんの
気げんの
よいまに
この批評文を
渡してくれ
了解
しました

それから20余年過ぎた
昭和10年夏のこと

下絵のことなどすっかり
忘れていた墨仙は
身辺整理中に男爵の
手紙を発見。

もらったときは
読むのもニューッで
ほっておいたん
だよ

「額は非常によく似ている。
よくこれまでに苦心された」
国定教科書に採用される。

※この肖像画が今回
小学校、師範学校の
教科書の修身書に
掲げられることとなり
既に掛図にも作られて
全国の各学校に
配布されたと聞くのは、
私の深く喜びとする
ところである。
(略)

同郷の名士の間では
大好評

おおう…
焼かすまての
のこしてあげたか…

下絵も発見

私の筆が少しでも
先生の高邁なる
人格を表すことを
得たとしたら
これ以上の満足は
ないと思ふ。」

以後、この下絵をもとに
描かれた肖像画が
国定教科書に採用される。

※探影「第14巻第9号
「肖像画私見」島田墨仙
昭和13年9月掲載より



知られざる福井の巨匠「島田墨仙」展は、来年三月に福井県立美術館で開催します。

「北荘・北美」は、土岡秀太郎(1895～1979年)を抜きに語ることはできません。

大正時代、福井県は文化の谷間にあり、美術の水準も極めて低いものでした。「北国美術の^{さかん}意欲を示す」目的で、1922年、土岡を中心に北荘画会(北荘)が設立されます。北荘では、土岡が1930年に私財を投げ打って建設したアルト会館を拠点として活発な美術運動を行います。

展覧会招致にも力を注ぎ、独立美術協会展、海外超現実主義作品展などでフォービズムやシュールレアリスムをいち早く紹介し、当時の若い世代に衝撃を与えました。北荘は1937年に解散しますが、その伝統を受け継いで戦後の1948年に北美文化協会(北美)が結成されるようになります。北美が毎年行う夏季講習会には岡本太郎ら日本の現代美術を切り拓く多くの作家たちも招か

れました。北美での成果は創立から2、3年も経たないうちに現われ、中央画壇で活躍する作家が続出するようになりました。

1960年代になると、北美は活動場所を東京や大阪へと広げ、様々な個性的作品を生み出していきます。表現の手法も油彩中心のものから造形へと移行し、モダニズムを乗り越えた根強い現代美術の前衛を目指すようになりました。北美の活動は1979年、土岡が亡くなるまで続きました。

このように、戦前の「北荘」と戦後の「北美」が福井の美術界に果たした役割は非常に大きく、現在県内外で活躍している作家達にも様々な形でその影響をみるることができます。今から85年以上も前に、このような先進的な美術運動が福井の地で起きたことを、私たち福井人はもっと誇りにしてもよいのではないのでしょうか。

(学芸員 西村直樹)

お知らせ

◎7月～9月の休館日について

展示替え、館内メンテナンス等のため、次の日は休館とさせていただきますのでご了承ください。

7月12日(月)、7月20日(火)～23日(金)、8月23日(月)～31日(火)、9月1日(水)、13日(月)、30日(木)

貸館情報 [7/15～9/26]

7/15～7/19 ● 第14回グループ「青い扉」パステル画展
7/15～7/18 ● 第3回現代美術L・展
7/16～7/19 ● 第4回職雪社書展
7/16～7/19 ● プレアデス会洋画展
7/24～7/26 ● 第17回移山会書作展
7/30～8/1 ● 第38回福井県朝日写真展
8/5～8/8 ● 20才の宴 市川哲朗
8/12～8/15 ● 水彩画3人展

8/17～8/22 ● 福井光学雑技団10周年展「十年十色」
9/2～9/5 ● 宮沢牧風の書
9/2～9/5 ● 第23回涼村社水墨画展
9/2～9/5 ● 第25回日本画爽展2010
9/2～9/5 ● キルトと日本画二人展
9/8～9/12 ● 第11回カカ・斜展
9/8～9/12 ● 第50回記念べんべん会展
9/8～9/12 ● フォトフレンズ写真展

9/9～9/12 ● 勝木禮子書展
9/16～9/20 ● 第16回玲風会日本画展
9/16～9/20 ● 第5回墨仙社水墨画展
9/17～9/20 ● 柴田美重子
パッチワークキルト教室作品展
9/17～9/20 ● 美山絵画教室展
9/22～9/26 ● 日本墨書会第32回選抜書道展
9/23～9/26 ● 癒しの織・陶・布・展
9/25～9/26 ● 第43回福井県学生書道展

2011年開催決定!! NHK大河ドラマ特別展「^こ江」福井展

県推進協議会キャラクター



来年のNHK大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」の放送に関連し、その特別展が、4月22日～5月29日、福井県立美術館で開催されることになりました。

江は、浅井三姉妹の三女で二代將軍徳川秀忠の正室となった姫ですが、福井ともゆかりが深く、本展では波乱に富んだ江の生涯などについて、歴史的資料とともに紹介します。どうぞご期待下さい!

福井県立美術館 秋の企画展案内

仏教美術展

平成22年10月9日(土)～11月3日(水・祝)



インドで興った仏教は、中国、朝鮮を経て日本へと伝わり、それぞれの地域における信仰や思想を取り込みながら大きく花開き、その篤い信仰心は仏像に代表される優れた造形を生み出しました。

本展では、日本を中心に、ガンダーラ、中国、朝鮮の彫刻・絵画・工芸など個人コレクターにより収集された仏教美術百数十点を展示し、各時代、各地域の人々が守り伝えてきた豊かな信仰とその美について紹介します。

「如来立像」ガンダーラ